

2024年（令和六年） 3月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

3/7～3/13のNYMEX・WTI先物市場は77.56～79.72ドルの範囲で推移した。

3月14日は、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報で、2024年の世界需要を上方修正する一方、産油量を下方修正、前月までの供給過剰の予想を供給不足に転換、前日の米国石油在庫の取り崩し報告と相まって、先行き需給ひっ迫感が高まり続伸し、4か月ぶりに80ドル台を回復した。4月物終値は前日比1.54ドル高の81.26ドル。

週末15日は、堅調な米国経済指標発表で利下げの先送り観測が高まるとともに、前日高値の利益確定売りも多く、3営業日ぶりに反落した。4月物終値は前日比0.22ドル安の81.04ドル。

週明け18日は、サウジの1・2月の産油量が減少・イラクの減産方針であるとの報道に加え、中国の堅調な経済指標の発表で中国経済への回復期待が高まり、反発した。4月物終値は前日比1.68ドル高の82.72ドル。

19日は、ウクライナによるロシア南部の製油所へのドローン攻撃が発生、操業停止の状況になっており、前日までの需給ひっ迫感の高まりに拍車をかけた形で、続伸した。4月物終値は前日比0.75ドル高の83.47ドル。

20日は、前日の4か月半ぶりの高値に伴う利益確定売りに加え、4月物の納会日の売りで、3営業日ぶりに反落した。ただ、最近の需給ひっ迫感は底値を支えた。4月物終値は、同1.79ドル値下りの81.68ドル。

中東産バイ原油/東京市場(5月渡し)は、3月7日～13日の間、81.60～83.00ドルの範囲で推移。3月14日83.30ドル、15日83.70ドル、18日84.10ドル、19日84.60ドル。

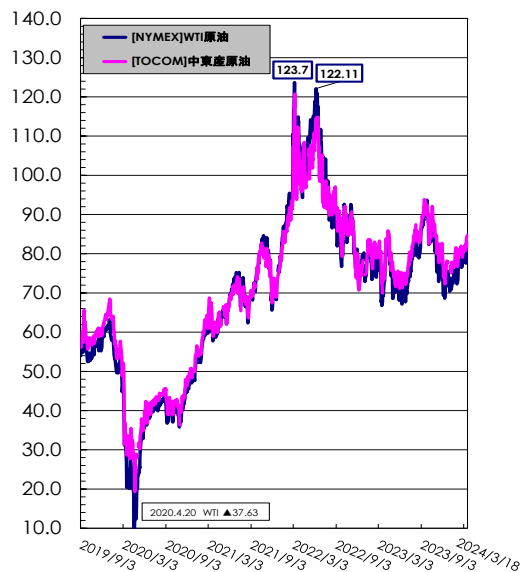
対ドル為替レート(TTM)は3月7日～13日の間、146.82～149.02円の範囲で推移。3月14日147.68円、15日148.59円、18日149.32円、19日149.28円。

財務省が3月21日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格78,014円で前旬比666円高、ドル建て83.02ドルで前旬比0.28ドル安、為替レートは1ドル/149.41円。また、2月の月間原油輸入平均CIF価格77,879円で前月比232円高、ドル建て83.58ドルで前月比2.13ドル安、為替レートは1ドル/148.14円

そのような中で、3月18日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油は横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.3円となった。3月21日～27日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.2円(補助金がない場合の次週予想価格196.0円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は11.0円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/10 ~ 3/16	2,857 ▲ 68	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.5 ▲ 1.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/16	10,447 ▲ 305	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/18	84.71 ▲ 3.85	▲ 14.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/18	82.72 ▲ 4.79	▲ 15.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	83.02 ▼ -0.28	▼ -4.86
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	78,014 ▲ 666	▲ 5,965
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.41 ▼ -1.78	▼ -19.06
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	3/18	150.32 ▼ -2.50	▼ -16.64

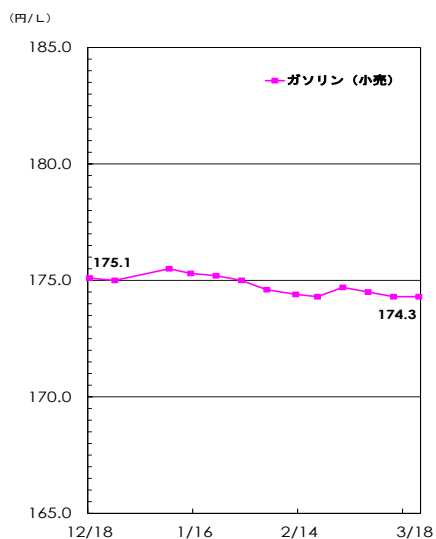
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/10 ~ 3/16	777 ▼ -163	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	770 ▼ -45	▲ -	
	輸出	"	97 ▲ 18	▼ -	
	在庫	3/16	1,586 ▼ -90	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/12 ~ 3/18	78.8 ➡ 0.0	▲ 5.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/12 ~ 3/18	81.0 ➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	3/18	81.0 ▲ 2.0	▲ 5.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/18	174.3 ➡ 0.0	▲ 6.8	

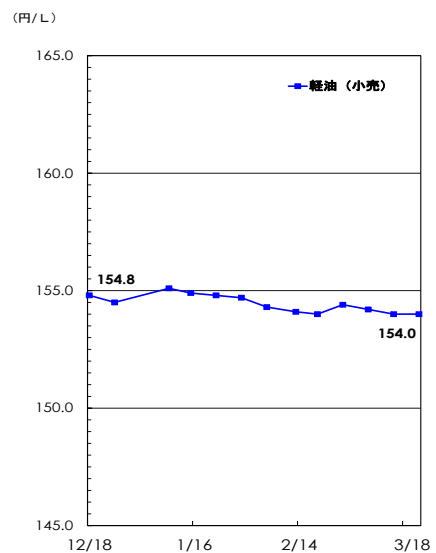
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

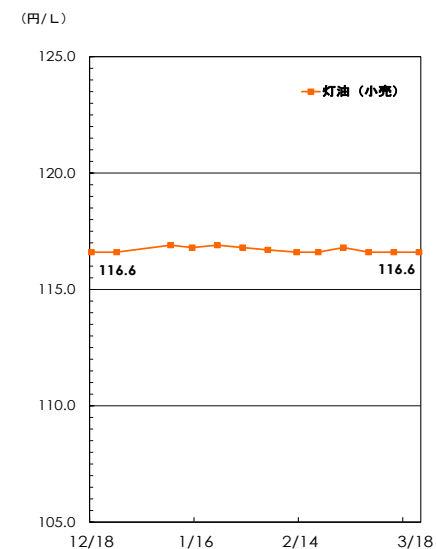
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/10 ~ 3/16	739 ▼ -46	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	636 ▼ -19	▲ -	
	輸出	"	24 ▼ -223	▼ -	
	在庫	3/16	1,543 ▲ 79	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/12 ~ 3/18	79.0 ➡ 0.0	▲ 3.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/12 ~ 3/18	82.2 ▼ -0.5	▲ 4.9
		(TOCOM/中部)	3/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/18	154.0 ➡ 0.0	▲ 6.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/10 ~ 3/16	295 ▲ 116	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	352 ▼ -42	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/16	1,254 ▼ -57	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/12 ~ 3/18	80.7 ▲ 0.5	▲ 5.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/12 ~ 3/18	81.0 ▼ -0.9	▲ 6.0
		(TOCOM/中部)	3/18	80.5 ➡ 0.0	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/18	116.6 ➡ 0.0	▲ 5.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(3月14日~20日)のWTI石油先物市場は、14日、IEA月報の需給引き締め予想を背景に続伸、80ドル台を回復し、4か月ぶり高値の81.26ドルで始まり、15日は81.04ドルに反落したものの、米国の堅調な経済、中国の景気回復期待、ウクライナのロシア製油所攻撃に伴う先行き石油需給のひっ迫感での高まりで、19日には83.47ドルを記録、20日は納会日、利益確定売りで反落したが、81.68ドルで終わった。週を通じて、80ドル台初めの水準で推移した。

3月20日発表の15日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油前週比200万バレル減と、市場予想(同1万バレル増)に反する2週連続の取り崩し、ガソリンも同330万バレル減と、市場予想(同140万バレル減)を上回る取り崩しで、需要の好調さを示す内容だった

が、市場への影響は限定的だった。

EIAによると3月18日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.7セント高の1ガロン3.453ドル(137.0円/ℓ)と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.4セント高の1ガロン4.028ドル(159.8円/ℓ)と5週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、3月15日時点で、前週比6基増の510基と2週ぶりの増加であった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2024年3月10日~3月16日に休止したトッパー能力は35.3万バレル/日で、前週に対して横ばい(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は285.7万klと、前週に比べ6.8万kl増加。前年に対しては13.3万klの減少。トッパー稼働率は79.5%と前週に対して1.9ポイントの増加、前年に対しては1.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/17.4%減、ジェット/23.9%減、灯油/65.0%増、軽油/5.9%減、A重油/0.2%減、C重油/18.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl。軽油の輸出は2.4万kl(前週比22.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)はC重油で増加し、他の油種で増加した。前年比ではA重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は77.0万kl(対前週5.5%減)と5週振りに減少した。ジェット9.6万kl(対前週26.3%減)、灯油35.2万kl(対前週10.6%減)、軽油63.6万kl(対前週2.8%減)、A重油22.8万

kl(対前週3.0%減)、C重油14.8万kl(対前週93.3%増)。

(単位:千kl)

	今週 (3/10 ~ 3/16)	前週 (3/3 ~ 3/9)	前週比	
ガソリン	770	815	▼ -45	(-6%)
ジェット燃料	96	131	▼ -35	(-27%)
灯油	352	394	▼ -42	(-11%)
軽油	636	655	▼ -19	(-3%)
A重油	228	235	▼ -7	(-3%)
C重油	148	77	▲ 71	(92%)
合計	2,230	2,307	▼ -77	(-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月16日時点の在庫はジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは158.6万kl、前週差9.0万kl減。前年に対しては6.0万kl少ない。

灯油は125.4万kl、前週差5.7万kl減。前年に対しては0.9万kl多い。

軽油は154.3万kl、前週差7.9万kl増。前年に対しては42.8万kl多い。

A重油は65.7万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては2.2万kl少ない。

C重油は174.6万kl、前週差7.1万kl減。前年に対しては0.1万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (3/16)	前週 (3/9)	前週比	
ガソリン	1,586	1,676	▼ -90	(-5%)
ジェット燃料	733	733	▶ 0	(0%)
灯油	1,254	1,311	▼ -57	(-4%)
軽油	1,543	1,464	▲ 79	(5%)
A重油	657	669	▼ -12	(-2%)
C重油	1,746	1,817	▼ -71	(-4%)
合計	7,519	7,670	▼ -151	(-2.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月12日～18日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。

上記コスト上げに、補助金減額分を考慮すると、3/21～3/27の実質卸価格は値上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月12日～18日の製品スポット市況は、3月5日～3月11日平均と比べ、ガソリン・軽油の陸上取引、ガソリンの先物取引が横ばい、軽油の海上取引、灯油と軽油の先物取引が値下がり、ガソリンと灯油の海上取引、灯油の陸上取引が値上がり、とまちまちな結果だった。

直近週(3/12～3/18)の陸上スポット価格平均値は、前週(3/5～3/11)比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.5円の値上がり、軽油は横ばいだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/12～3/18)に、前週(3/5～3/11)比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油も0.4円の値上がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.9円の値下がり、軽油も0.5円の値下がりだった。

(お知らせ(6ページ)をご参照ください。)

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (3/12～3/18)	前週 (3/5～3/11)	前週比	
レギュラー	78.8	78.8	→ 0.0	
灯油	80.7	80.2	▲ 0.5	
軽油	79.0	79.0	→ 0.0	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値) [平均]	今週 (3/12～3/18)	前週 (3/5～3/11)	前週比	
レギュラー	81.0	81.0	→ 0.0	
灯油	81.0	81.9	▼ -0.9	
軽油	82.2	82.7	▼ -0.5	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/12～3/18実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	→ 0.0	→ 0.0	→ 0.0
灯油	▲ 0.5	▼ -0.9	▼ -0.2
軽油	→ 0.0	▼ -0.5	▼ -0.3
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの174.3円、軽油も横ばいの154.0円、灯油も18%ペースで横ばいの2,099円(1%ペースでも横ばいの116.6円)。ガソリンは3週ぶりに値下がり止まり、軽油も3週ぶりに値下がり止まり、灯油は2週ぶりに値上がり止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが18道府県、横ばいは青森等7県、値下がりが22都府県だった。全国最安値は徳島県の166.8円、その次は宮城県の167.9円であった。他方、最高値は長野県の184.3円。最も値上がりしたのは和歌山県(同1.9円高)、最も値下がりしたのは沖縄県(同1.6円安)だった。

次回調査時(3/25)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)		
	今週 (3/18)	前週 (3/11)	前週比	直近高値
レギュラー	174.3	174.3	→ 0.0	23/9/4 186.5
灯油	116.6	116.6	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.0	154.0	→ 0.0	08/8/4 167.4

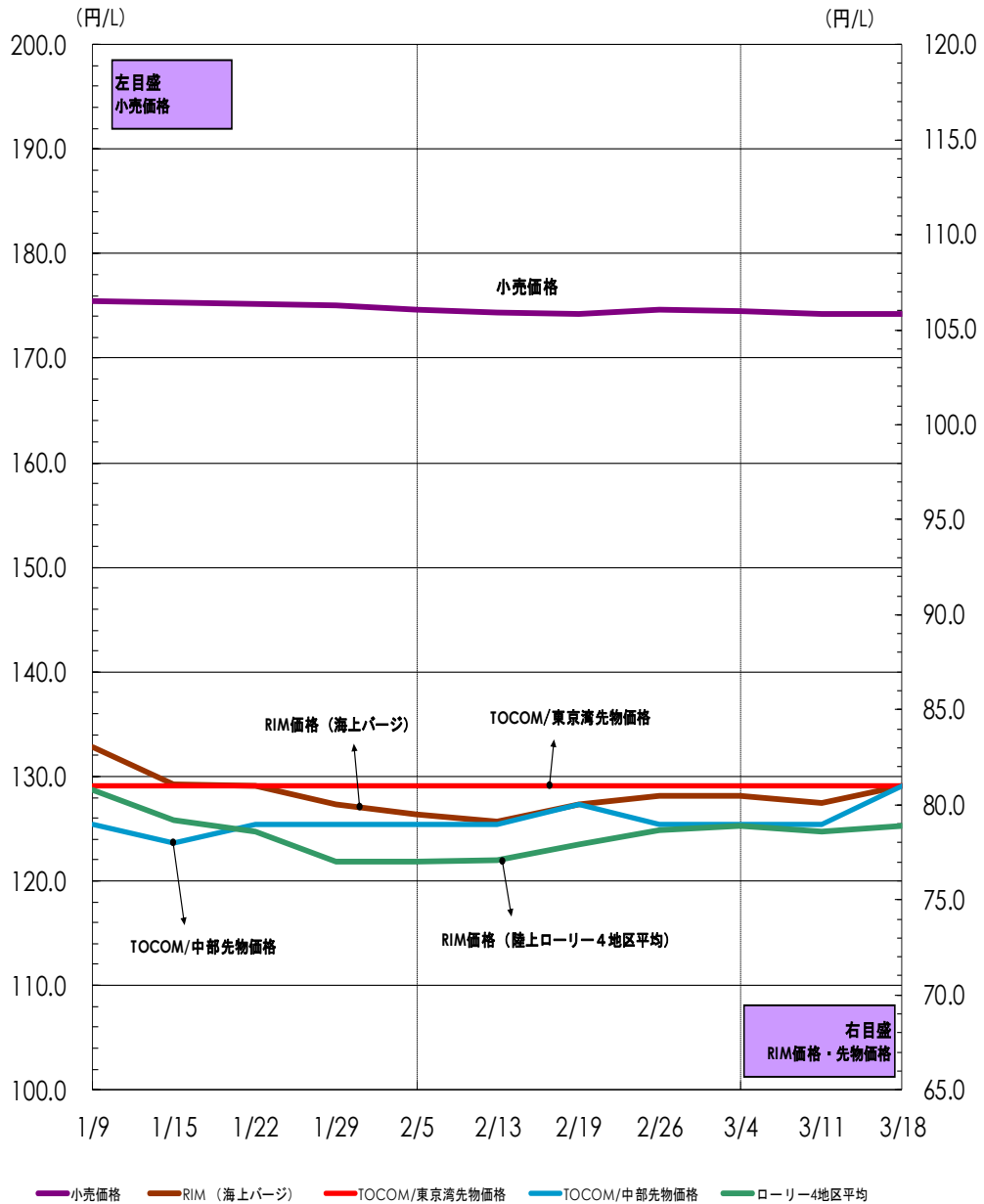
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2024/1/9 ~ 2024/3/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2023第49号) の公表は、3/29 (金) 14:00 です。

### お知らせ

新年度、本レポート第50号 (4月5日) より、紙面の改訂を予定しています。近年の石油流通の構造、石油製品の価格形成等の状況変化を踏まえ、掲載情報の入れ替え、順序の整理などを行います。特に、4ページの3 (2) の「業転価格」については、表を含め、掲載を取りやめることとします。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。